

令和6年度事業計画

1 自然環境復元協会の理念

外なる自然の復元と内なる自然の回復

2 ミッション

身近な自然環境を復元すること。

自然体験を通じた豊かな感性と人間力溢れるヒトが育つ場を提供すること。

3 事業計画

(1) 環境教育及び環境人材の育成に係る活動

1. 活動の方針

<p>(1) 事業の方針・方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再生医の一般受験者をさらに増やす取り組みと、運営の効率化により複数回開催にチャレンジする。 ・テキストの改定等により学習の質&魅力を上げる。 ・再生医のロールモデルに光があたるようにPRに注力する。 ・認定校との関係維持、内部の効率化および認定校担当者の負荷軽減の両立にチャレンジする。
<p>(2) 5年後(次の中期計画)に、実現したい状態の具体的なイメージ</p>	<p>資格取得者の活動や生き方に光があたり、それによって一般受講者や認定校取得者が増える循環が実現している。また、資格取得者に光が当たるようなサポートが実践できている状態。</p> <p>■サポート例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介機会の提供 (PR 機会、登壇機会など) ・人のマッチング (実践希望者と人員拡大希望者など)。 ・ノウハウのマッチング (勉強会、ネットワーク作りの機会など)。 ・環境系高校生と認定校のマッチング (認定校紹介など)。 <p>■取得者増加例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こんな人のような仕事や生き方したい」とのロコミで取得したくなる。 ・「この大学でこんな環境の勉強ができるらしい、再生医も取れるらしい」で入学&取得したくなる。 ・「認定校は生徒確保につながるらしい」との実感で認定校を維持したくなる。
<p>(3) 実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・再生医事業の運営体制の安定化 ・運営の効率化、仕組み化の推進
<p>(4) 個別の事業をどのように連携させて、全体としての効果を高めるか</p>	<p>■レンジャーズ事業との連携 フィールドへの再生医のマッチング拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期待できる効果 (活動機会の増加、レンジャーズリーダーの確保) <p>■ふるさと未来事業との連携 再生医を対象としたスタディツアーなどのプログラム実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期待できる効果 (再生医の実地研鑽の機会確保と、参加者の安定的な確保) ・再生医外の参加者に再生医を知ってもらう機会の提供 <p>■広報事業との連携 再生医ロールモデルのPR (組織全体として再生医にフォーカスした情報発信)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期待できる効果 (広報: 顔の見えるコンテンツの充実) (再生医: 受講者の集客)
<p>(5) 組織運営、会員制度、団体としての寄付獲得、広報などとの関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資格合格者への入会、会員継続への取り組みを進める ・入会者の再生医を支援する仕組みの検討

2. 活動計画

①環境再生医（資格認定講習）

中長期計画：5か年：2024年度スタート～2028年度ゴール（2024年4月～2029年3月）		
取組内容	目標数値	取り組み方法及び目標達成における課題
資格認定講習の受講者数増加	①受講者：200人/年 ②講習開催数：年3回開催（NAREC3回、外部0回） ③受講者満足度：100%（アンケート） ④入会率：50%	・開催回数の増加。 <課題> ・事務的工数（申込管理・試験運営・認定者登録・入会処理など）について、より効率化やパターン化することが必要か。 ・外部開催については、ECO検定を会社として受講している企業などにアプローチしてみるなどもあり得るか。 会員制度の見直しは、NARECの全体としての検討が必要。（担当の明確化も含めて）
継続学習	①、資格取得者向け企画：年3回 ・活動者の紹介企画（オンラインセミナー等でのゲスト登壇、紹介動画等のコンテンツ作成、継続的にコンテンツ化を進め蓄積して来たらマップ化 など） ・フィールドワーク ・交流会の開催（年1回） ・再生医の会との連動（対象地域の会の運営が安定している場合） ・他事業との連動や相乗り企画により、学習会などの開催回数を確保&運営スリム化（レンジャーズ、未来塾等） ②、未取得者向け企画：	・取得者向けと未取得者向けを兼ねられる企画を検討 ・4版テキスト勉強会（3回）の開催 ・交流会は、各企画や勉強会の紹介の機会として活用する ・資格取得者（活動者）にスポットライトがあたる取り組みに力をいれることで、再生医のイメージを具体化するとともに、新規資格取得者へのPRとする <課題> ・運営工数の確保が難しい。（資格講習の事務的工数を削減、NAREC全体としての機会づくりが必要） ・資格取得者を紹介するコンテンツ作成スキル、PR戦略などのノウハウが不足している
<p>R6年度方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新事務局体制での資格認定講習運営の安定化と効率化の推進。 ・資格認定講習の受講者満足度向上（3版テキスト旧態化への対応、講習動画の改善など）。 ・一般講習取得者向けの企画（勉強会等）を実施する。 		
<p>R6年度計画（目標数値）</p> <p>■資格認定講習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：1回 ・受講者数：80人（2023年度実績97人-17人[矢野ファン11+紹介6]） ・開催時期：1～2月 ・受講者満足度：100%（アンケート） ・入会率：50% ・内容：前年度の問題点を改善（3版テキスト旧態化への対応、講習動画の改善など）。 ・形式：オンライン ・運営：事務局体制の安定化および運営作業の効率化（新スタッフへの共有等） <p>■継続学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般取得者向け：2企画（協働企画/未来塾 ・レンジャーズ、自主企画/オンライン等） 		

②認定校

中長期計画：5か年：2024年度スタート～2028年度ゴール（2024年4月-2029年3月）		
取組内容	目標数値	取り組み方法及び目標達成における課題
申請者数増加	①、申請者：300人/年 ②、認定校との関係維持：35校 ③、新規の認定校の増加：5校 ④、未取得層へのアプローチ企画：年2回（学生直アプローチ企画1、先生が学生に案内したくなる企画1）	・人数拡大は今後難しいと判断し、現状維持を目標とする （人数増加は、一般受験者に注力する） ・新規の認定校確保の営業（人文社会系大学へ案内）。 ・就活系企画（学生直アプローチ）の実施。 ・大学選び企画（中高校生直アプローチ）の実施。 ・先生が学生に案内したくなる企画（就職率UP企画）の実施。 <課題> 認定校関連企画の運営工数確保
人材育成	認定校初級取得者向け企画：毎月定期開催	一般取得者向け企画での兼用を検討する。 <課題> 運営工数確保のため、講習会運営工数削減が必要。

R6年度方針

- ・認定申請対応の効率化および事務局体制の整備（新人員体制での安定化）
- ・認定校取得者層が活性化する企画（勉強会等）を実施する。
- ・認定校との個別連携強化につながる企画（ガイダンス等）を実施する。
- ・認定校との連携強化（関係維持・回復、新規獲得など）につながる情報収集とともに、企画（勉強会等）を検討する。
- ・認定校（&非認定校含め）の学生に直にコンタクトできる関係作り企画（大学や先生経由ではなく）を検討する。

R6年度計画（目標数値）

- 認定者数
 - ・240名（2023年実績予想240人）
- 認定校
 - ・関係継続：37校（昨年実績同様）
 - ・関係回復：1校
 - ・新規：発生ベース
 - ・連携強化：1企画試行（例：認定校学生×若手再生医）
- 認定校取得者活性化
 - ・試行：1企画（例：勉強会など）

③質の向上

中長期計画：5か年（2024年度スタート～2028年度ゴール：2024年4月-2029年3月）		
取組内容	目標数値	取り組み方法及び目標達成における課題
社会認知度の向上	INT 検出結果（キーワード「環境、資格、未経験」で2番目以内。イメージはEco 検定の次あたり	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の設定については、要検討（ターゲット、目標、施策など全てが現時点ではあいまいなため） ・PR 的な取り組み、資格取得者の活動機会づくりなど目的の整理も含めて検討が必要
有償受託案件の増加	有償 5 件	発生ベース（積極的工数かけず）
環境再生医の活躍の場作り、活動支援等	5 件	発生ベース（積極的工数かけず）
NAREC 他事業との連携	環境再生医フィールドでのレンジャーズ実施 5 件 環境再生医フィールドでの未来塾開催 3 件	
テキスト 4 版出版関連	R6 年度（2025 年 3 月末）出版	
<p>R 6 年度方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受託案件や環境再生医の活躍の場作りにつながる情報収集。 ・公式テキスト 4 版の R6 年度（2025 年 3 月末）出版を進める。 ・テキストの改定等により学習の質&魅力を上げる。 ・NAREC 他事業との連携企画を試行する。 		
<p>R 6 年度計画（目標数値）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■認定校からの実習や特別授業などの有償案件を受託する（目標数値の設定はなし。発生ベースで対応する） ■再生医×企業、再生医×助成金、再生医×認定校、再生医×再生医などのマッチング案件等を模索する（目標数値の設定はなし。発生ベースで対応する） ■NAREC 他事業との連携企画の試行 <ul style="list-style-type: none"> ・環境再生医×レンジャーズ 1 件 ・環境再生医×未来塾 1 件 ■テキスト <ul style="list-style-type: none"> ・4 版出版作業を進める（2025 年 3 月末出版）。※R7 年度 4 月より活用を目標 ・3 版テキスト旧態化への対策を実施する。 		

④管理（更新・再登録）

中長期計画：5か年（2024年度スタート～2028年度ゴール：2024年4月-2029年3月）		
取組内容	目標数値	取り組み方法及び目標達成における課題
更新率の維持	更新率 70%	事務作業の効率化。 継続的な学習の仕組みづくりと、更新制度の整合性など。
更新制度見直し（対象級、更新料、更新要件、外部 CPD 制度との連携検討 など）		
R 6 年度方針 <ul style="list-style-type: none"> ・ R6（2024）年度対象者については前年度同等の取組を行う。 ・ 運営の効率化および事務局体制の整備（新スタッフへの作業共有等）を行う。 ・ 更新率向上企画（継続学習、資金確保、人材確保、有償案件紹介等）を試行する。 		
R 6 度計画（目標数値） <ul style="list-style-type: none"> ■更新率（対象者数 78 人） 60%以上（更新者数 47 人） ■運営 効率化および事務局体制の整備（新スタッフへの共有等） ■更新率向上企画 更新メリットにつながる企画（継続学習、資金確保、人材確保、有償案件紹介等）を試行（目標数値の設定はなし。発生ベースで対応する） 		

(2) 身近な自然環境の保全・復元・維持管理に係る活動

1. 活動の方針

<p>(1) 事業の方針・方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ レンジャーズ隊員、リーダー、受け入れ団体への決め細かいアンケートをとり、満足度の高い活動へとフィードバックし、リピート率を上げ、実際の活動者数を増やす。 ■ 通常のレンジャーズを核として継続しながら、学生レンジャーズや親子レンジャーズを次世代参加者育成のために新たに試行的に実施していく。 ■ 魅力的なレンジャーズ出動要請を検討する。 ■ レンジャーズ隊員から受け入れ団体への移行に積極的に取り組む。
<p>(2) 5年後（次の中期計画）に、実現したい状態の具体的なイメージ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ レンジャーズ隊員登録者に魅力的な出動要請で各フィールドの定員を超える状態をめざす。 ■ 各フィールドの受け入れ団体ごとに最低1～2名のレンジャーズ隊員からの移行者があり、受け入れ団体の持続可能性が高まる状態をめざす。 ■ 高齢化する隊員の補充やレンジャーズの持続可能性を高めるため、学生版レンジャーズの定例化とともに子育て世代のレンジャーズ参加を促進する。 ■ 若い隊員の増加、フィールド定員の超過、受け入れ団体への隊員の移行へと好循環が形成されると、レンジャーズも受け入れ団体も持続可能となる。
<p>(3) 実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学生レンジャーズの定例化を推進する運営体制を確立するとともに、学生に近い年齢層でのリーダーの育成体制が構築する ■ 子育て世代むけの親子レンジャーに相応しいフィールドと運営体制を構築
<p>(4) 個別の事業をどのように連携させて、全体としての効果を高めるか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各フィールドの受け入れ団体に環境再生医が存在するようにしたい。受け入れ団体の活性化とともに環境再生医の活動の場を広げることとなる。 ■ 環境系学生未来塾経験者が学生レンジャーズのリーダーとなることで、学生隊員への刺激となり活性化が期待される。
<p>(5) 組織運営、会員制度、団体としての寄付獲得、広報などとの関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ レンジャーズも含めて、マスコミ等への定期的な資料提供、窓口体制などを検討する。

①レンジャーズプロジェクト

中長期計画：5か年（2024年度スタート～2028年度ゴール：2024年4月-2029年3月）		
取組内容	目標数値	取り組み方法及び目標達成における課題
レンジャーズの参加者のニーズを把握し参加機会の拡大を図る	登録者 5000 人、活動数 500 人、活動回数 80 回 フィールド数 40 箇所 リーダー数 20 人	レンジャーズ出動要請を魅力的なものにし、実際の活動者数を増やす 参加者へきめ細かいアンケートをとり、より満足度の高い活動にフィードバックする。 活動参加者及びリーダーの参加満足度をアップしリピート率を上げる。
学生版レンジャーズの定例化	年間 6 回程度開催	・学生に近い年齢層でのリーダーの育成 ・学生向け広報ツールの検討
小学生レンジャーズ（親子レンジャーズ）の定例化	子育て世代のレンジャーズ参加を促進する 春夏冬休みの年間 3 回程度実施	・次代を担う小学生とその保護者世代をネイチャーポジティブ層に取り込みたい。 ・相応しいフィールドの検討（穂谷等）
レンジャーズ参加者が受け入れ団体へ移行することで受け入れ団体の持続可能性を高める	受け入れ団体へ最低 1、2 人のレンジャーズ出身者がいる	・受け入れ団体、レンジャーズリーダー、事務局などで議論し方向性を見出す。

R6年度方針

- ・レンジャーズの参加者のニーズを把握し参加機会の拡大を図るため、23年度にレンジャーズ活動に参加した隊員の分析を行うとともに、参加者アンケートにより、目的・メリット・期待などの把握を行う。
- ・学生版レンジャーズの定例化に向け、実施方法や内容の検討を行う。
- ・子育て世代のレンジャーズ参加を促進するため、小学生レンジャーズの試行を行う。
- ・レンジャーズ隊員の受け入れ団体への参加を推進する。
- ・資金調達では、継続的な資金獲得を目指す。
- ・広報担当者と連携し、レンジャーズプロジェクトの広報強化を引き続き行う。

R6年度計画（目標数値）

レンジャーズプロジェクト 70回以上の開催計画を行う

- 2023年度参加隊員約400人の分析、2024年度参加隊員に対するアンケート100件
- 学生版レンジャーズ1回程度実施
- 小学生レンジャーズ（親子レンジャーズ）の試行1回実施・検証
- レンジャーズ参加者の受け入れ団体への参加
受け入れ団体への現状調査20件 情報交換20回

(3) 農山漁村の活性化及び環境保全型農林業に係る活動

1. 活動の方針

<p>(1) 事業の方針・方向性</p>	<p>環境系学生未来塾では、参加者のニーズが把握しきれておらず、参加者コミュニティ、その後のフォローアッププログラムの不足状態にある。また、参加費収入だけではスケールアップが見込めないなどの課題がある。 このため、安定した地域補助金の獲得や自治体との協力を進めていく。 ふるさと未来創造事業（環境再生医スタディツアー）により、全国の環境再生医がつながりを作っていく。</p>
<p>(2) 5年後（次の中期計画）に、実現したい状態の具体的なイメージ</p>	<p>環境系学生未来塾では、参加者コミュニティが活性化（半年に1回の同窓会）し、新規参加者の誘客に繋がっている。 地域パートナー（地域補助金獲得や自治体からの事業を受託する地元団体）が4地域ある状態 【耶馬溪・屋久島】では、卒業生に向けた関係人口創出フォローアップが成立している状態 ふるさと未来創造事業では、全国の環境再生医がつながり、再生医間のネットワークが活性化している。また、地域の環境再生事例を理解し、実践に落とし込める状態になる。</p>
<p>(3) 実施体制</p>	<p>現在の実施体制は、スタッフ1名体制で実施しているが、新規事業を導入するには、プロジェクトを運営していく人材が不足しており現状では難しい。</p>
<p>(4) 個別の事業をどのように連携させて、全体としての効果を高めるか</p>	<p>ふるさと未来創造事業への環境再生医の参加 首都圏で実施するスタディツアーフィールドは環境再生医が関わるレンジャーの受入れ団体フィールドで実施</p>
<p>(5) 組織運営、会員制度、団体としての寄付獲得、広報などとの関連</p>	<p>ふるさと未来の中心的事業である環境系学生未来塾は、プログラム内容は充実しているが、参加者が少なく今後の展開のためにも問題点等を検討する必要がある。 定期的なマスコミ、ミニコミへの資料提供、窓口体制などを検討する必要がある。</p>

①環境系学生未来塾

中長期計画：5か年（2024年度スタート～2028年度ゴール：2024年4月～2029年3月）		
取組内容	目標数値	取り組み方法及び目標達成における課題
環境系学生のコミュニティづくり	・参加者 250人 参加者コミュニティが活性化（半年に1回の同窓会）しており、新規参加者の誘客に繋がっている	・参加者のニーズが把握しきれていない ・参加者コミュニティ、その後のフォローアッププログラムの不足
地域パートナーの発掘と育成	・地域パートナー（地域補助金獲得や自治体からの事業を受託する地元団体）が4地域ある状態	・安定した地域補助金の獲得 ・自治体との協力
未来塾の実施	・年4回定例開催	・参加費収入だけではスケールアップが見込めない。
未来塾の認知拡大、リブランディング	・【耶馬溪・屋久島】卒業生に向けた関係人口創出フォローアップが成立している	

R6年度方針

自然体験・原体験の機会を若者へ提供することで、地方や自然環境に関わる価値感の向上へ寄与する。このため、観光ガイド本には載っていないような、地域の人と触れ合い、地域のもので食べ、地域の自然に触れ、Next Actionを含めた教育要素を備えた環境人材育成合宿「環境系学生未来塾」の事業化を進める。

環境系学生未来塾では、参加者のニーズが把握しきれておらず、参加者コミュニティ、その後のフォローアッププログラムの不足状態にある。また、参加費収入だけではスケールアップが見込めないなどの課題がある。このため、安定した地域補助金の獲得や自治体との協力を進めていく必要がある。

令和6年度は参加者ニーズの把握と分析を行うとともに、参加者のフォローアップ、積極的な広報活動、地域パートナーの発掘を行う。

R6年度計画（目標数値）

- ・1回あたりの参加者を8名以上確保

開催予定

- ・耶馬溪
- ・屋久島

②ふるさと未来創造事業（環境再生医スタディツアー）

中長期計画：5 年間（2024 年度スタート～2028 年度ゴール：2024 年 4 月～2029 年 3 月）		
取組内容	目標数値	取り組み方法及び目標達成における課題
プログラムの開発	全国の環境再生医がつながり、年3回のフィールドワーク（屋久島、首都圏近郊）が行われている 事業として自立・自走している	屋久島での環境再生医向けプログラム（コンテンツ）の検討 ・ツアーコーディネータの人材育成 ・地域の上級再生医とのうちあわせ（運営、企画、プログラムの実行できる人材） ・オプションツアーの検討
環境再生医スタディツアーの実施		
事後フォローの実施	再生医間のネットワークが活性化している状態 地域の環境再生事例を理解し、実践に落とし込める状態	

R6年度方針

農山漁村では生物多様性の第2の危機である人間活動のインパクトの減少によって里地里山の動植物が絶滅の危機にさらされている。この要因の一つとして、農山漁村の自然環境を保全している環境保全型農林漁業者が営みを継続できないことから事業の撤退や縮小が挙げられる。

再生医間のネットワークが活性化し、地域の環境再生事例を理解し、実践に落とし込めるようになるため、環境再生医スタディツアーのプログラム開発を行い、試行、検証する。

また、再生医ネットワークの構築、再生医のニーズ把握、企業研修への転用の可能性などを検討する。

R6年度計画

- ・プログラムの開発
屋久島での環境再生医向けプログラム（コンテンツ）の検討する
- ・環境再生医スタディツアーの実施
7月屋久島で事前打ち合わせ
10月首都圏近郊スタディーツアーの試行
2月屋久島でスタディーツアー実施
- ・事後フォローの実施

(4) 社会啓発や情報発信等に係る活動

1. 活動の方針

<p>(1) 事業の方針・方向性</p>	<p>ニュースレターでは、年4回発行・発送を想定し、年1回（夏号）は年次報告書号とする。</p> <p>普及啓発の基盤強化として、知識の向上を図るため、職員やボランティアの普及啓発の基礎能力向上のための研修動画の購入・共有、業務支援ソフト・ツールの導入、NARECの活動を周知、募集の掲載先のリスト化を進める。</p>
<p>(2) 5年後（次の中期計画）に、実現したい状態の具体的なイメージ</p>	<p>SDGs や 30by30 に対する活動の見える化</p> <p>ボランティア、インターン生の普及啓発力の向上を図り、「ひとり広報」をベースとした最低業務のマニュアル化、発信のルール化により、広報しやすい環境を整える。</p> <p>また、基礎力向上と業務改善により、職員の作業時間が軽減される。</p>
<p>(3) 実施体制</p>	<p>人手が不足しており、他の業務の傍らで遂行している。</p> <ul style="list-style-type: none">・他事業での周知、集客の基盤強化となるようなツールを導入し組織全体の基盤強化を図る。 <p>⇒業務の基盤強化、効率化を図り、業務時間の短縮化と普及啓発力の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none">・常勤職員1名（兼任）、週2日、ボランティア、インターン、アルバイト（単発）
<p>(4) 個別の事業をどのように連携させて、全体としての効果を高めるか</p>	<ul style="list-style-type: none">・情報公開のルール化、・SDGs や 30by30 にどのように貢献しているかがわかる情報を整理（事業担当者と連携）・認定校への情報の掲載条件の確認、リスト化、・当協会が発信できる情報の整理、各委員会への確認・協力依頼を図っていく
<p>(5) 組織運営、会員制度、団体としての寄付獲得、広報などとの関連</p>	<ul style="list-style-type: none">・寄付企業の情報公開条件を早急に検討し、条件確定後、ホームページやニュースレターで発信をおこなう。

①ニュースレター

中長期計画：5 か年（2024 年度スタート～2028 年度ゴール：2024 年 4 月-2029 年 3 月）		
取組内容	目標数値	取り組み方法及び目標達成における課題
ニュースレターの発行	年 4 号発行 (うち年次報告書号 1 号)	・継続的に発行する
関連学会との連携	関連学会との交流により、ニュースレター等で学術情報を共有し、内容の充実を図る	・関連学会との交流により、ニュースレター等で学術情報を共有し、内容の充実を図る（継続）
ホームページと連動企画 (活動紹介記事の公開)	紹介記事を掲載	・募集企画 ・会員・再生医の学術的レポートや研究紹介をホームページで掲載し、ニュースレターで概要紹介をする。 <課題> ・情報発信ルール化によっては発信できない可能性もある。 ・作業の人手不足が考えられる。
R 6 年度方針		
・ニュースレターは継続的に発行するとともに、関連学会との交流により、ニュースレター等で学術情報を共有する。		
R 6 年度計画		
■ ニュースレター年 3 回発行、ニュースレター+年次報告書発行 年 1 回（夏号）		
■ ニュースレターで関連学会の情報を共有する		

②その他の社会啓発

中長期計画：5 か年（2024 年度スタート～2028 年度ゴール：2024 年 4 月-2029 年 3 月）		
取組内容	目標数値	取り組み方法及び目標達成における課題
知識の向上	-	・普及・啓発に関する研修動画の選定 ・職員、ボランティア、理事への共有
業務支援ソフト・ツールの導入	5 つの支援ツールの導入を予定 (例：分析、調査、ストーリー、デザイン、動画 AI 生成等)	・事業担当者へ広報課題や問題点、方向性をヒアリング ・導入するソフトウェア・ツールの検討 ※担当職員が兼務のためアルバイト、インターン、ボランティアと連携 ※各委員会でもツールの利用を想定
広報戦略の再検討	・情報公開ルールの再整備	・共感者、寄付者獲得に向け、全体及び事業別での広報戦略を見直す ・SDGs や 30by30 への貢献度をわかりやすく発信（各委員会と連携） ・オンラインコンテンツ (YouTube、SNS など) の活用
事業の紹介コンテンツの作成	・ショート動画の作成 (3 本)	・事業担当者と相談の上、ショート動画を作成 ※担当職員が兼務のため、アルバイト、インターン、ボランティアと連携して行う予定。
R6 年度方針		
・協会の普及啓発力向上と体制づくりを図る。 ・情報公開、掲載先の整理を各委員会への確認・協力のもとに進める。 ・寄付者、支援先等の情報発信に関する再検討する。		
R6 年度計画		
・普及・啓発に関する研修動画を選定する。 ・事業担当者へのヒアリングにより、導入する業務支援ソフト（文章作成、デザイン等）を検討する。 ・情報発信に関するマニュアルの更新と共有する。 ・SNS でタイムリーな情報発信（インターン生やボランティアと連携）をする。 ・情報発信先（例：大学等）の整理をする。		

(5) 自然環境の復元の学術的發展に貢献する活動

1. 活動の方針

<p>(1) 事業の方針・方向性</p>	<p>NAREC のミッションに基づく 自然環境教育・研究・学術に関わる活動 総会等での講演会（学術系研究の発表、研究会など） ニュースレターへの学術系内容の紹介、コラムなど</p>
<p>(2) 5年後（次の中期計画）に、実現したい状態の具体的なイメージ</p>	<p>研究発表会・講習会、レベルアップ講習会等 対象者：環境再生医、NAREC 会員、レンジャーズ会員、時に一般参加者 機関誌等の発刊</p>
<p>(3) 実施体制</p>	<p>学術・研究分野担当者 職員及びパート職員</p>
<p>(4) 個別の事業をどのように連携させて、全体としての効果を高めるか</p>	<p>理事らの研究分野に関わるアカデミックな発表および環境再生に関する内容の発表 環境再生に関する実施具体例の発表またはその紹介説明</p>
<p>(5) 組織運営、会員制度、団体としての寄付獲得、広報などとの関連</p>	<p>研究発表会、講演等は参加費徴収、研究誌等の場合はコマーシャル料</p>

①子どもと自然をテーマにした研究等

中長期計画：5か年（2024年度スタート～2028年度ゴール：2024年4月-2029年3月）		
取組内容	目標数値	取り組み方法及び目標達成における課題
自然環境系教育及び研究発表会 （子どもと自然）	ニュースレターへの学術・研究コラムの掲載	理事の専門を生かしたタイトルとする
生きもの（植物・動物）観察会 再生医レベルアップ講習会 自然教育	春および秋（年1～2回）の 自然教育（自然観察会など）	・NAREC 会員・環境再生医、（レンジャーズ）対象 ・一般人
日本櫻学会等とコラボレーション	日本の自然・桜、花見文化の 講話など	日本の花見文化と農の民としての自然研究など
R6年度方針		
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>まずは、再生テキストを優先とする</u> ・ ニュースレターへの定期的な学術・研究・コラム等の掲載 		
R6年度計画		
NAREC の理事らの研究分野および専門、活動内容を把握する 総会・講習会での発表を計画する		

令和6年度 活動予算書

(単位:円)

科 目	令和5年度(実績)		令和6年度予算	
一般正味財産増減の部				
I. 経常収益				
1. 受取会費				
正会員受取会費	497,000		600,000	
賛助会員受取会費	1,201,000		1,400,000	
受取入会金	6,000		8,000	
受取会費 計		1,704,000		2,008,000
2. 受取寄付金				
受取寄付金	2,949,498		17,110,000	
受取寄付金 計		2,949,498		17,110,000
3. 受取助成金				
受取助成金	0		2,000,000	
受取補助金	0		0	
受取助成金等 計		0		2,000,000
4. 事業収益				
受託事業収益	82,320		4,701,000	
再生医講習会費収益	1,815,000		0	
再生医講習会費収益(認定校)	1,648,000		200,000	
その他事業収益	1,186,200		0	
		4,731,520		4,901,000
5. その他収益				
受取利息	227		0	
雑収益(事業)	54,940		0	
雑収益(管理)	8,795		0	
その他収益 計		63,962		0
経常収益 計		9,448,980		26,019,000
II. 経常費用				
1. 事業費				
(1) 人件費				
給料 手当(事)	6,769,964		3,853,000	
賞 与(事)	0		0	
役員報酬(事)	0		0	
臨時雇賃金(事)	0		1,435,400	
通勤費(事)	232,712		60,000	
法定福利費(事)	469,923		439,650	
福利厚生費(事)	8,980		39,000	
人件費 計		7,481,579		5,827,050
(2) その他経費				
業務委託費	2,638,507		10,331,000	
諸謝金(事)	345,020		3,030,000	
印刷製本費(事)	152,702		123,000	
会議費(事)	2,974		15,000	
旅費交通費(事)	244,178		1,080,440	
車両費(事)	31,215		0	
リース料(事)	27,377		0	
車両燃費費(事)	0		0	
通信運搬費(事)	507,378		353,040	
消耗品費(事)	758,840		542,200	
消耗器具備品費(事)	0		20,000	
広告料(事)	1,595		50,000	
新聞図書費(事)	31,053		0	
水道光熱費(事)	56,282		0	
地代家賃(事)	814,770		0	
賃借料(事)	7,795		0	
減価償却費(事)	56,229		0	
保険料(事)	24,470		20,000	

諸会費(事)	60,469			0	
接待交際費(事)	0			0	
租税公課(事)	18,074			0	
研修費(事)	0			80,000	
支払手数料(事)	124,936			76,500	
支払利息(事)	0			0	
雑費(事)	0			2,800	
その他経費(事)計		5,903,864			15,723,980
事業費計			13,385,443		21,551,030
2 管理費					
(1)人件費					
給料手当	768,902			1,520,000	
賞与	0			0	
役員報酬	0			0	
パート・アルバイト料	0			0	
通勤費	23,046			155,000	
法定福利費	82,927			32,000	
福利厚生費	1,584				
人件費計		876,459			1,707,000
(2)その他経費					
印刷製本費	12,010			70,000	
会議費	524			5,000	
旅費交通費	922			5,500	
車両費	262			2,000	
車両燃費費	0			0	
通信運搬費	59,647			100,000	
消耗品費	40,909			50,000	
修繕費	0			0	
水道光熱費	9,931			65,000	
地代家賃	271,590			1,200,000	
賃借料	1,375			7,700	
広告宣伝費	0			3,000	
接待交際費	0			0	
新聞図書費	1,131			0	
業務委託費	176,550			1,100,000	
会計士報酬	0			0	
諸謝金	0			0	
減価償却費	9,922			0	
保険料	0			25,000	
諸会費	8,906			75,000	
減価償却費	0			65,000	
慶弔費	0			0	
リース料	4,831			0	
租税公課	3,189			25,000	
支払手数料	20,450			20,000	
支払利息	0			0	
雑費	0			7,770	
その他経費計		622,149			2,825,970
管理費計			1,498,608		4,532,970
経常費用合計			14,884,051		26,019,000
経常損益金額			▲ 5,435,071		0
経常外収益			0		0
法人税、住民税及び事業税			70,000		70,000
当期一般正味財産増減額			▲ 5,505,071		▲ 70,000
前期繰越一般正味財産額			28,401,853		22,896,782
次期繰越一般正味財産額			22,896,782		22,826,782

令和5年度事業費の内訳

科目	1 環境教育及び環境人材の育成に係る活動	2 身近な自然環境の保全・復元・維持管理に係る活動	3 農山漁村の活性化及び環境保全型農林業に係る活動	4 自然体験学習に係る活動	5 テキスト等の出版に係る活動	6 社会啓発や情報発信等に係る活動	7 自然環境の復元の学術的発展に貢献する活動	事業費合計	管理費	予算合計
【経常収益】								0		0
【受取会費】								0		0
正会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	600,000	600,000
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	0	0	0	1,400,000	1,400,000
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0	8,000	8,000
受取会費計	0	0	0	0	0	0	0	0	2,008,000	2,008,000
【受取寄付金】								0		0
受取寄付金	10,000	15,600,000	0	0	0	1,200,000	0	16,810,000	300,000	17,110,000
受取寄付金計	10,000	15,600,000	0	0	0	1,200,000	0	16,810,000	300,000	17,110,000
【受取助成金等】								0		0
受取助成金	0	0	2,000,000	0	0	0	0	2,000,000	0	2,000,000
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取助成金等計	0	0	2,000,000	0	0	0	0	2,000,000	0	2,000,000
【事業収益】								0		0
事業収益	3,501,000	900,000	300,000	0	0	0	0	4,701,000	0	4,701,000
受託事業収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他事業収益	0	200,000	0	0	0	0	0	200,000	0	200,000
事業収益計	3,501,000	1,100,000	300,000	0	0	0	0	4,901,000	0	4,901,000
【その他収益】								0		0
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計	3,511,000	16,700,000	2,300,000	0	0	1,200,000	0	23,711,000	2,308,000	26,019,000
【経常費用】								0		0
【事業費】								0		0
(人件費)								0		0
給料手当(事業)	483,000	2,130,000	200,000	0	0	1,040,000	0	3,853,000	1,520,000	5,373,000
賞与(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨時雇賃金	1,173,000	200,000	0	0	0	62,400	0	1,435,400		1,435,400
通勤費(事業)	60,000	0	0	0	0	0	0	60,000	155,000	215,000
法定福利費(事業)	72,450	270,000	0	0	0	97,200	0	439,650	32,000	471,650
福利厚生費(事業)	39,000	0	0	0	0	0	0	39,000		39,000
人件費計	1,827,450	2,600,000	200,000	0	0	1,199,600	0	5,827,050	1,707,000	7,534,050
(その他経費)								0		0
業務委託費	10,000	9,300,000	900,000	0	0	121,000	0	10,331,000	1,100,000	11,431,000
諸謝金	480,000	2,050,000	500,000	0	0	0	0	3,030,000	0	3,030,000
印刷製本費(事業)	16,000	10,000	0	0	0	97,000	0	123,000	70,000	193,000
会議費(事業)	10,000	0	0	0	0	5,000	0	15,000	5,000	20,000
旅費交通費(事業)	70,000	400,000	600,000	0	0	10,440	0	1,080,440	5,500	1,085,940
車両費(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	2,000	2,000
リース料(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0		0
車両燃費費(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0		0
通信運搬費(事業)	72,040	71,000	0	0	0	210,000	0	353,040	100,000	453,040
消耗品費(事業)	72,200	470,000	0	0	0	0	0	542,200	50,000	592,200
消耗器具備品費(事業)	20,000	0	0	0	0	0	0	20,000		20,000
広告料(事業)	50,000	0	0	0	0	0	0	50,000	3,000	53,000
水道光熱費(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	65,000	65,000
地代家賃(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	1,200,000	1,200,000
賃借料(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	7,700	7,700
委託手数料(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0		0
会計士報酬(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0		0
保険料(事業)	0	20,000	0	0	0	0	0	20,000	25,000	45,000
諸会費(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	75,000	75,000
租税公課(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0	25,000	25,000
研修費	20,000	0	0	0	0	60,000	0	80,000		80,000
支払手数料(事業)	4,500	6,000	0	0	0	66,000	0	76,500	20,000	96,500
支払寄付金(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0		0
支払利息(事業)	0	0	0	0	0	0	0	0		0
減価償却費									65,000	
雑費(事業)	2,800	0	0	0	0	0	0	2,800	7,770	10,570
その他経費計	827,540	12,327,000	2,000,000	0	0	569,440	0	15,723,980	2,825,970	18,484,950
事業費計	2,654,990	14,927,000	2,200,000	0	0	1,769,040	0	21,551,030	4,532,970	26,019,000
経常費用計	2,654,990	14,927,000	2,200,000	0	0	1,769,040	0	21,551,030	4,532,970	26,019,000
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	856,010	1,773,000	100,000	0	0	▲ 569,040	0	2,159,970	▲ 2,224,970	0